

ロシアにおける国内および外国銀行の効率性分析

北海道大学 大野成樹

現在ロシアでは、金融部門に対する外国直接投資が盛んであり、多くの外国銀行が進出している。本報告は、包絡分析法（DEA）を利用し、ロシアの国内銀行と外国銀行の効率性を計測した。なお、規模に対して収穫一定を仮定した場合の効率性は、技術的効率性と呼ばれ、仮定しない場合の効率性は、純技術的効率性と呼ばれる。

効率性を計測する際には、投入と産出の設定が重要である。これには大きく分けて3つのアプローチがある。1つ目は生産アプローチであり、銀行は銀行口座と融資の生産者とみなされる。投入には諸経費、資本、産出には銀行口座数、融資額などが利用されることが多い。2つ目は仲介アプローチであり、銀行は資金の余剰主体と不足主体の仲介者とみなされる。投入には預金額、算出には融資額などが利用される。3つ目は利益アプローチであり、投入には支払利息、その他経費、算出には受取利息、受取手数料などが利用される。本報告では利益アプローチを利用した。これは、銀行サービスの質の捕捉に関しては利益アプローチが優れていること、利益の最大化を目的として銀行が活動していることなどがその理由である。

分析を行う前に、国内銀行と外国銀行のデータを一緒に分析するのか、分けて分析するのかを決定しなければならない。分散分析、Wilcoxon Rank-Sum テスト、Kolmogorov-Smirnov テストを行った結果、データをプールして分析しても差支えがないことが明らかになった。

続いて銀行の効率性を計測した。分析結果によると、外国銀行の方が、国内銀行よりも技術的効率性が高いという結果が得られた。また、生産性の変化を Malmquist 指数により計測したところ、外国銀行は生産性の低下傾向が見られた。このことから、外国銀行と国内銀行の効率性は、平準化する方向に向かっていることが明らかになった。

最後に、銀行の効率性の要因を、Tobit 回帰分析によって推計し、以下の点が明らかになった。1) 外国銀行は国内銀行よりも技術的効率性が高い傾向があった。2) モスクワに拠点を置く銀行は、モスクワに拠点を置かない銀行よりも非効率的である。3) 大きな資産を有する銀行ほど、投入の無駄が少なくなる傾向がある。4) 資産に占める融資の割合の高い銀行は、純技術的効率性が高くなる傾向が見られた。5) ROA の高い銀行ほど、技術的効率性が高い傾向が見られた。